



ポスターセッション

第13回子ども学会議では44件のポスターが発表された。子ども学会議初めての試みとして、30秒の概要発表を1日目のお昼前のセッションに行った。ポスター発表者の発表意識を高めるとともに、参加者のスムーズなポスター誘導につながった。ポスター会場ではコーヒーと軽食のサービスがあり、参加者はリラックスしながらイブニング・セッションの直前まで活発に議論していた。会議参加者による投票で、最優秀賞が1名、優秀賞が2名選ばれ、大会1日目の夕刻から行われたイブニング・セッションで表彰された。

【最優秀発表賞】 長田有子：「楽しい療育アプリシリーズ」を使用した臨床課題の実践

【優秀発表賞】 神谷直輝：マルチモーダル映像センシング基盤を用いたユマニチュード・ケアの分析

菅原ますみ：高校生のメディア・リテラシーに関する探索的研究—バラエティー番組に対する感想をめぐって

第13回子ども学会議 ポスターセッション最優秀発表賞 演題

「楽しい療育アプリシリーズ」を使用した臨床課題の実践

長田有子 (NPO 法人チャイルド・ケアリング・アソシエーション)

タブレットを使用した臨床課題アプリを制作して実践し、その効果を検証した。

■目的

『すらすらことば』：発語が遅いあるいは全くない方や、構音障害、失語症の方が対象。文字に絵と音の感覚イメージを付与することにより「ことば」を発しやすくなり、画面に合わせて繰り返し口の形や動きを模倣することにより発語を促す。

『どんどんはなそう』：歌うようにことばを音声で示し、動きのある絵で動作を表現すること等により連語のトレーニングになる。2語文から3語文、反対ことばやものの名前の獲得を促進する。

『ぐんぐんきおく』：行動が追順できないあるいは集中や注意力が持続しない、聴覚記憶が弱い方対象。最初は2桁から始まり、徐々に桁を増やしていくことにより短期記憶を強化する。

■結果

発達障害のあるお子さん2歳から対象に週1回月2回の個人セッションで使用した。1年間150人のお子さん対象にセッションを行った結果、全く発語のなかったお子さんの発語がみられるケースが95%以上あり効果が認められた。また、被虐待児の施設にても療育課題で行った。また、ワーキングメモリのトレーニングの「ぐんぐんきおく」において、最初2桁の数唱が困難なお子さんの場合でも1年の療育で4、5桁の数唱が可能となり、指示が入りやすくなり集団への追順性が容易になったケースが多く見られ4、5、6才対象には90%以上に行動の追順に改善がみられた。海外の日本人学校においての療育でも使用されている。

なおこのアプリは第10回キッズデザイン賞を受賞した。

*本研究は被験者のご家族からの承認を得た。

演題番号	筆頭発表者	タイトル
1	桐山 伸也	障害児発達支援のための「子どもの行動コアパス」に基づく音楽活動分析システム
2	漁田 俊子	ワークシートを用いた子育て支援方法の構築と保育実践事業
3	河田 承子	オンラインにおける妊婦の不安相談の内容に関する調査
4	戸次 佳子	小学2年生と5年生における運動実技調査から明らかになった協調運動発達の特徴
5	瀬尾 知子	自尊感情を高める食育の実践-総合的な学習の時間での取り組み-
6	石川 衣紀	スウェーデンの子ども病院におけるホスピタルプレイセラピーの実際
7	内藤 千尋	少年院在院の発達障害等の発達困難を有する少年の「声」から探る発達支援の課題
8	清多 英羽	「いのちの教育」の幼児向け教材としての絵本に関するジャンル分けの研究
★ 9	長田 有子	「楽しい療育アプリシリーズ」を使用した臨床課題の実践
10	柴田 真緒	当事者調査から探る発達障害の睡眠困難の実態と支援のあり方
11	鳥海 弘子	保育所看護職による保護者支援と地域の子育て支援の現状-質問紙調査からの検討-
12	杉尾 直子	学校給食における郷土料理の活用の現状
13	木村 志緒	学校給食における献立等の現状-平成17年との比較を中心に-
14	能田 昂	児童養護施設における発達困難を有する子どもの支援ニーズ-子どもの語りを通して-
15	塘 利枝子	日本・中国・台湾の教師・保育者は親子間のやりとりをどう評価しているか
16	池田 敦子	大学における発達障害学生支援と学生支援コーディネーターの役割-支援事例を通して-
17	内海 緒香	健康/安全を守る環境としての幼児期のモニタリングに関する保育実践活動
18	所 真里子	「脆弱な消費者」としての子どもの問題-子どもの安全への視点と企業・家庭の対応-
19	諸岡 由依	母親からの歌いかけ場面と歌声再生場面に対する乳児の反応の比較
20	岩本 麻里	保育所の巡回相談に求められる心理士の役割-巡回シートの相談内容分析を通して-
21	仁木 和久	アクティブラーニング理論-「学びの行為」と「教える行為」の脳認知科学から-
22	木村 美知代	「一時預かり」体験が学生の学ぶ力となる指導方法とその効果
23	荒木 舞香	感覚統合の体操開発を目差した幼児の実態調査への取組
24	大島 光代	インクルーシブ保育を目指した「紙芝居」製作と読み聞かせの実践
25	神長 涼	発達障害青年の就労移行期の困難と課題:発達障害者支援事業所に就労した当事者の事例
26	白石 仁美	マタニティマークの認知度および有用性に関する研究
27	大平 雅子	幼児における日中活動量と睡眠中の生理指標及び起床後の唾液バイオマーカーとの関連性
28	佐藤 朝美	新たなメディアの絵本キャラバン WS 実践によるプロジェクト型学習の効果に関する研究
29	村松 志野	幼保小接続期における幼児の自尊感情の変化
★ 30	菅原 ますみ	高校生のメディア・リテラシーに関する探索的研究-バラエティー番組に対する感想をめぐって-
31	田中 卓也	学習雑誌とファッション雑誌との葛藤-小学館学年別学習雑誌と『女学生の友』を中心に-
32	七海 陽	乳幼児のスマートフォン等利用に関する保護者支援の課題-保護者調査結果からの考察-
33	木本 有香	保育者養成校での子育て支援活動における学生の学びの現状
34	中山 陽子	病児と医療を遊びでつなぐホスピタル・プレイの実際とHPS
35	榊原 洋一	子どもの不注意多動行動はQOLを低下させる
36	高橋 摩耶	対人意識の低い2歳男児に対する集団適応に向けての療育施設での取り組み
37	三島 悠希	ソーシャル絵本推薦システムにおける絵本の推薦率の向上に関する研究
38	佐藤 久美子	幼児期における英語習得の効果と日本語習得への影響
39	邵 勤風	日常の経験で家庭的背景による差を縮められるのか?-資質・能力への影響を考えて-
40	鈴木 夏也	高齢者の自律をアシストするチームコミュニケーションの見える化
★ 41	神谷 直輝	マルチモーダル映像センシング基盤を用いたユマニチュード・ケアの分析
42	佐々木 勇輝	感情に着目した子どもと高齢者の問題解決プロセスの比較
43	橋川 春菜	父親のイクメン化を促すモバイル ICT サービス
44	浅野 大喜	障害児をもつ母親の養育態度と子どもの問題行動